

そよかぜ診療所、はるかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部付属病院 初期研修医 福島恵実

初期研修医の必須研修の1つである、地域医療研修先としてそよかぜ診療所を選ばせていただいた一番の決め手は、診療所にジムがあるということでした。学生時代に趣味で始めた筋トレ、気づけば毎日ジム通い。フィットネスの大会にも出場しました。そのため地域医療実習の1カ月で一番不安だったことはジムに通えなくなることでした。研修医の先輩に相談し、そよかぜ診療所ならジムがある！という情報を手に入れ、それが志望理由となりました。

診療所の勤務が始まり、環境の変化に戸惑うこともたくさんありましたが、運動できる環境に救われました。また研修期間中、毎朝30分ランニングするという個人的な目標は暖かい布団から出られなかった2日を除いて達成しました！朝来地区の想像以上の朝の冷え込みには驚きましたが、緑豊かな森や川、大自然の中で走り、リフレッシュすることができました。濃霧、小雨、朝焼け、雲間に見えた朝日…毎日変化する気候も、普段なら味わうことができないためとても新鮮でした。

話がそれてしまいましたが本題の研修について。大学病院では医師が採血することはほとんどありません。もともと採血に苦手意識があった私は、ただでさえ採血の機会が少ない環境でも避け続けてきました。しかし診療所での研修医の業務として習得しないとイケない環境で、看護師さんの丁寧かつ分かりやすい説明で少しずつ、拒絶心が薄れていきました。私の緊張をくみ取ってくださった患者様が「採血上手ね、全然痛くなかったわ、自信もって」と声をかけて下ったときは、とても嬉しかったです。

また、エコーも大の苦手でしたが、先生方が習得できるまで見守り指導してくださりました。また、スタッフの方が練習に付き合ってください、職員の方々のおかげで苦手意識を少しずつ克服していくことができました。医師としてできて当たり前の手技を習得できていないことがコンプレックスだったため、この1カ月はとても学びの多い貴重な時間となりました。

診療所のスタッフの方をはじめ、毎日「今日のお昼なにかな」と楽しみにするくらいおいしいお昼ごはんを用意してくださった岡本家の皆様、訪問診療時に暖かく迎えてくださった患者様とご家族、行きたかったタルト屋さん、団子屋さんで気さくに話しかけてくださった店員さん、朝のランニングですれ違い際に挨拶をしてくださった白いジャージを着たおじさん、そのほかにも多くの方々の優しさに助けられ終えられた1カ月でした。そよかぜ診療所での学びを今後の仕事でも活かせるよう努力していきたいと思えます。

1か月間大変お世話になりました。ありがとうございました。